

「自主自律」を考える

校長 栃倉 和則

「自主自律」：本校の特色、校風を語る上で欠かせない言葉です。皆さんは、この意味を自覚して行動しているでしょうか。「自主」とは、「自ら主体的に取り組む」という意味に違いありません。「自律」は、「自らを律する」すなわち、「自分に厳しく」ということで、「自立」につながる言葉です。皆さんも言葉の意味はよく理解していると思います。

寒くなつて、学校に遅刻する人が増えてきたような気がしています。朝、起きるのがつらい、人の常です。日常生活、毎日同じことを繰り返すつて、とてもつらいことでもありません。でも、時間は待ってくれません。だからこそ、「自律」の精神が大切なのです。もう少し早めに家を出て、遅くとも八時二十五分までには正門を通りましょう。

校長室には、歴代の校長先生方の写真が掲げられています。初代から第四代校長までは肖像画です。その頃も「自主自律」と言っていたのでしょうか。もしそうだとするなら、どんなものだったのかと思いを馳せます。本校は一九四十年開校です。第一期、二期生の卒業式が行われたのが一九四五年、戦争の真只中です。当時の卒業生たちも戦地に向かつて行ったのかもしれない。生きるのに精いっぱい、人のことなどかまっていられない時代。人に迷惑をかけず、自分のことは自分で行う。そういうことだったのではないかと思うのです。

今ある自由は、おそらく学生運動以降のものでしょう。一九六〇年代、多くの大学では、学生の自治、学問の自由を求め、政治にも介入しようとしていました。それが高校に飛び火したのが六〇年代終盤のこと。いくつかの都立高校では、生徒たちが自由を求めて、ストライキや学校封鎖を行いました。時に機動隊が介入して鎮圧、指示に従わない生徒は退学処分を受けました。豊多摩には校則がなく、自由がある。しかし、だからよいというのではなく、自由の背景にある責任をしっかりと自覚して、権利を失うことのないように行動してもらいたいと願っています。自ら主体的に取り組み、自らを律する者でなければなりません。「言われなくてよいことを人に言わせない」ことこそが「自立」なのです。

*Touch the Sky! TOYOTAMA!*